

平成27年度 財政学習講座 アンケート(第5回)

1. 君津市の経営改革の取り組み又は本日の講義について感想をお書きください。

A:今回はとても気づきの多い有意義な時間になりました。ファシリティマネジメントゲームでは、その難しさを改めて実感致しました。老朽化した施設に早めに手を加えて建て替えたり、複合化したりする際、同じ資金で、もっと多くの人が利用できる方法に気づかず、無駄な費用の使い方で建設してしまったり…。内容的に最適な「資金」と「人」が合致する条件が有るのに建設用地が無かったり…。また地域で子育てをしてきて、地域で働き、公共施設をよく利用し高齢者の両親も地域に住んでいる自分にとって、お金と人がなんとか収まれば良いのか？と言われたら違う訳で。果たして、この地域に住みたいのか？未来を描けるのか？と考え出したら、本当に難しいことだと実感致しました。

さらに実際の行政では、講演でのお話が出てきたとおり、未来を見据えた視点と目の前に迫っている現実との狭間でコストの制約やニーズの変化に対応しながらの検討が必要ですし、縦割り行政の中で使うお金自体にも各行政管轄の色が付いていたり…。

また現実社会では、やり直しはききませんし、そこに暮らす一人ひとりの住民の暮らしが、毎日が関わってきます。本当に計画の段階で目標を明確にしたシナリオをきちんと描いて着手しなくてはいけないことを実感致しました。

しかし同時に、それが実現不可能な未来の無い、夢物語などではないということも、今日はなによりも実感致しました。1施設だけで見ていた物事を市や地域全体で見ると、最善だと思っていたプランよりもっと無駄を省いた方法があったり、長寿命化や複合化で開かれる道があったり…。また、他市の先例の民営化などで良くないと思い込んで方法から排除していたものも、一度本質に立ち返り、客観視して、管理する人や使い方の工夫次第では、元有った機能に同じ場所で新しい機能を生み出せないか再考してみたり。また行政サービスはマンパワーと言われる中で、人を減らせばいいのではなく、プロとしてその施設に居なくてはならない「人」の必要性を考えたり。

また、縦割り行政でお金に付いてしまっている色を一旦「公共施設マネジメント」という大枠の中で透明にして必要なところに優先順位をつけて使っていくことで1施設だけで行き詰っていたものが市として未来あるものに変えていくことができることなど、本当にワークショップで体験することによって見えてきたものがたくさんありました。

君津市でも市の職員の方も頭を悩ませながら検討を重ねてられる最中だと思いますが、職員の方にも異動はあります。私たち市民は決して他人事と思わず、また難しく手の届かないことと思わずにきちんと学んで一緒に市の未来を創っていく一員にならなくてはと思わせてくれた1日でした。ありがとうございました。

C:よく読まして頂く

E:市内の公共移設の利用状況が施設ごとにかかなりの違いがあることに驚きました。

F:関口さんの講義は歯切れ良くとてもわかりやすかったです。

H:複合化が大事なのかなと思った。

I:己のエゴ主張の疎かが判りました。視点を高所遠で視ることでした。

L:市民との協議が大切。

N:シミュレーションゲームをやってみた結果、もっと全体を見ながら意見を持たないといけないと思った。

2. 公共施設再編シミュレーションゲームについて感想をお書きください。

B:むつかしかった。

C:大変おもしろかった。小学校が半減して福祉センターが増大した。

D:カードゲームはたのしかったのですが、現実や人間性を考えると本当はどうすればいいのか難しいと思います。

E:ゲームの中で行革が具体的に見えてきました。もう少し時間がほしかった。

F:やり方がわからず戸惑いましたが、面白く楽しめました。

G:ゲームで考えるとなかなか難しいがおもしろいと思った。

H:とても面白かった。目に見える形だとわかりやすい。

J:苦しいゲームの中にあれあれと感じる事がありました。もっと時間がほしいです。

L:住みたい町づくりをつくるのは大変。

M:先進市の職員の方から説明をいただき感謝しています。

N:とてもわかりやすかった。人口・お金と住みたくなる町の調整がとても難しい。市民の力で予算を浮かすカードがうれしかった。

3. その他、講座に関してご意見等があれば自由にお書きください。

B:寒かったです。ホットコーヒー持ってくればよかった。

L:もっと勉強したい！

N:この講座に感謝